

ヴェリタスツアーエン沖縄～Day3～

8:10 南西観光ホテル出発 → 市営バスで移動 → 9:00 DMMかりゆし水族館

⑧ DMMかりゆし水族館

ヴェリタスツアーエン沖縄の最終日はDMMかりゆし水族館を訪問しました。
ここはきれいな空間演出を楽しめるエンターテインメント性の高い水族館です。

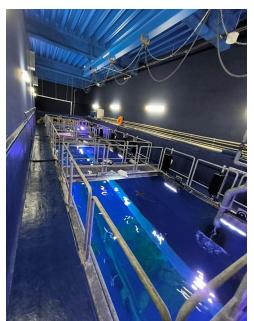
・バックヤードツアー

普段は目にすることができない水族館のバックヤードを担当者の方に案内していただきました。水族館の水槽に入れるための水には海と同じ塩分濃度があるそうで、その塩水をつくるための何百キロもの塩の袋がバックヤードに積み重ねてありました。この塩は家庭で調理用に使う塩とは異なり、食べられるけれど、とても苦いそうです。その苦さの正体は魚たちにとって必要なカリウムやカルシウムなどの成分です。

次にクラゲが種ごとに分けられている水槽のまえに移動して、説明を受けました。クラゲは種類によって食べるものが違うそうです。ミズクラゲは主に動物プランクトンなどを、アカクラゲは自身の毒が強いので他の種類のクラゲを食べます。水族館では元気がなくなったクラゲを切り刻んでアカクラゲにご飯としてあげるそうです。水族館にはクラゲエリアがあるのですが、元気がなくなったクラゲの交代要員がバックヤードの水槽にいるそうです。

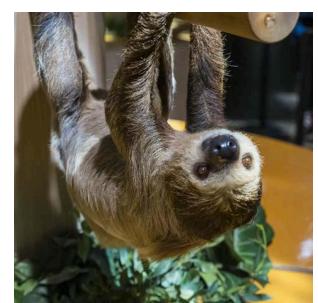
次にバックヤードにいるサメ二体(そんなに大きくありません)への餌やりを体験しました。
アジのぶつ切りを投げ入れると17人分のぶつ切りを勢いよく食べていました。

最後に大水槽の魚たちにオキアミをあげました。
大水槽にはエイやサメやその他の魚たちが泳いでおり、普段はガラス越しにしかみることができない水槽の上に立つと不思議な感じがしました。
バックヤードでは魚の健康に気を使っている飼育員さんの努力の一端を知ることができました。(※撮影に制限があったため写真は少なめになります)



・水族館見学

その後は自由に水族館内を見学しました。かりゆし水族館は魚だけではなく動物も見ることができます。フクロウやナマケモノ、ミーアキャットにも会うことができます。また、王道の魚たちに加えて、ブラジルカaimanやチアナゴなど珍しい生き物にも会うことができます。

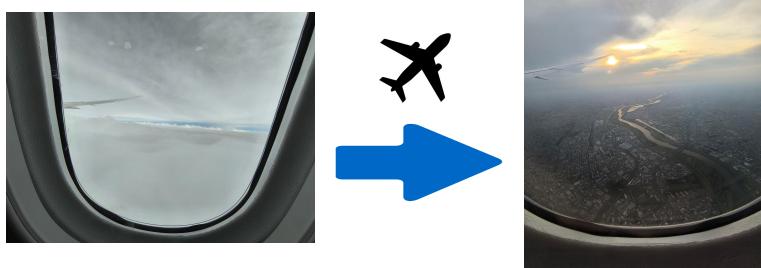


写真映えスポットとしても人気なこの水族館では、
大水槽や丸窓、クラエリアなどで光の演出を楽しみながら写真撮影もできました。

バックヤードツアーで上からみた大水槽の客側↓



12:00 DMMかりゆし水族館出発 → 市営バスで移動 → 13:00 那覇空港到着



15:30 離陸 → 18:00 羽田空港到着 → 現地解散

全行程終了！

3日目は台風の影響も心配でしたが、全員無事に帰ってこられました。

感想

バックヤードツアーへの参加が印象的でした。普段は立ち入ることのできない水族館の裏側を見学し、飼育員の方々がどのように生き物たちの健康を守っているのか、どんな工夫や努力をしているのかを知ることができました。例えば、水質の管理、エサの準備、生き物の様子を日々細かく観察することの大切さなど、表からは見えない「支える側の仕事」に触れることができました。

また、DMMかしゆり水族館は最近出来たばかりということで、とても幻想的な世界が広がっていました。展示の中にはプロジェクションマッピングやデジタル技術を使った演出もあり、見る人を引き込むような工夫がされていたのも印象に残りました。これによって、単に「見る」だけではなく、「感じる」「考える」展示になっていて、より深く自然や生き物について興味を持つことができました。「水族館」という名前ですが、フクロウやナマケモノといった陸上の動物も展示されており、水辺だけでなくさまざまな環境に生きる生物たちを間近で観察することができました。都会で生活していると、生き物や自然とふれ合う機会は限られているので、学校で学んだ知識も実感としてはなかなか得にくいですが、この施設では、まるで巨大な森の中に迷い込んだかのような内装の中で、多様な生物と出会うことができ、教科書で学んだ生態系のしくみを肌で感じることができました。知識が「実体験」として結びついたような感覚があり、とても印象に残りました。多様な生物を見て、さまざまな生態を体感できるこの水族館ならではの魅力を感じることができました。

今回の体験を通して、「水族館＝楽しむ場所」だけでなく、「生き物の命や環境について考える場所」でもあることに気づきました。そして、自然を守るためにには私たち一人ひとりの意識が大切だということも改めて感じました。

本当にあっという間で、自分が知らない新しい世界を知り、ワクワクした3日間でした。参加することができてとても良かったです。

最後に、今回の沖縄ヴェリタスツアーを企画してくださった先生方や、私達の訪問にあたって、協力してくださった関係者の皆様、本当にありがとうございました。今回の経験を自分の学習や進路決定に活かしていきたいです。